

法科大学院受験記

【受験校】 中央大学・慶応大学・明治大学（全て既修）

私は、5月までは旧司法試験短答式の対策しかしておらず、まわりの法科大学院を受験している友人たちと比較して、勉強が遅れている方だったので、法科大学院の受験に際しては、必要最低限のことしかできませんでした。具体的には、まず受験前年度の暮れから、ステートメントの土台作りをはじめました。周囲の方に見ていただいて感想を言っていたき、修正するという工程を繰り返しました。そのため、おそらく10回程度は書き直したと思います。それでも満足のいくステートメントを完成することはできませんでした。ステートメントは書いてみると、独自性を出すことが意外に難しいと感じました。受験校ごとに指定文字数が異なるのですが、限られた文字数の中で自分を存分に表現することはとても難しく、特に中央大学の1000字程度の限られた枠の中で、自分がどういう理想を持ち、どういう法曹になりたいのかなど、課題に答えながら自分らしさを表現することはとても困難でした。ただし、この1000字程度のベースさえある程度出来上がれば、私が受験した慶応大学、明治大学のステートメントには応用が利きます。

次に行ったのは、TOEICの対策でした。「10日で960点が取れる」というテキストで10日対策したのですが、3月受験の際は500点、5月受験の際は530点という散々な点数でした。ですので、TOEICのスコアは必須提出書類だった慶應大学にしか提出していません。TOEICがこの程度悪くても他の要素でカバーすることは可能です。ですので、もしもTOEIC、その他の語学試験に失敗しても、それほど落ち込む必要はありません。しかし、もちろんスコアがよいことに越したことはありません。ですので、私は経験者として早めの対策をお勧めします。

そして法律科目以外の対策としては最後になりますが、適性試験の対策は、5月の旧司法試験の択一試験終了後から始めました。私は大学入試センターの適性試験を出願し忘れたので、日弁連1回きりしかチャンスがありませんでした。日弁連の対策としては、過去問を一通り解き、予備校が行っている模擬試験を受験しました。しかし本番は、平均点をわずかに上回る程度の点数でした。原因は対策不足、その他多々あると思いますが、こちらでも早めの対応をお勧めします。特に国立の学校を志望される方は、適性試験の結果は重要です。もっとも、TOEICと同様、私が受験した上記3つの学校では、法律科目での挽回が十分可能です。ですので、もしTOEICや適性試験の結果が芳しくなくても、決して諦めず、気持ちを切り替えて法律科目の対策を行っていただきたいと思います。

最後に法律科目の対策としては、私はまず、7月に行われた既修者認定試験に照準をあわせて対策を行いました。この試験は、明治大学を受験する際には必須受験試験でした。憲法民法刑法は、旧司法試験の択一の対策をしていれば、より細かい知識が問われることもありますが、十分対応できます。他の四科目は、旧司法試験の択一合格者でも対策が不十分な場合が多く、対策をきっちりしていけば、高順位が狙えます。私は、旧司法試験の択

一の科目はほぼ対策をせず、他の四科目の対策をしました。テキストとしては、予備校が出している、新司法試験の択一の過去問と、法科大学院の択一の過去問を合わせた問題集を使用していました。さらに既修者試験が終了した後も、中央大学の択一对策として、先述の問題集を使用しました。この問題集は、注意して使わないと誤植が多く、面倒なのですが、出題範囲としては、十分対応していると思います。

論文の対策は、予備校が行っている答案練習会の他、各法科大学院の過去問の論文を書いて、周囲の方に添削していただいたり、同級生と検討を加えたりといった対策を行いました。

受験を体験してみて感じたことは、試験までの1年間はやることが多く、あっという間に過ぎてしまうので、時間の有効活用が必要であるということです。また、試験が終わってから発表までの時間がとても長く感じるため、精神的な強さも要求されると感じました。

私は精神面がとても弱い上、旧司に失敗して一回落ち込み、それをひきずったまま適性試験も失敗し、また落ち込むという過程をたどってしまったので、試験後は疲弊しきっていました。それでも何とか最後の試験まで受験することができたのは、失敗談などを聞いてくれた周囲の友人などの力添えあってのことだと思います。法科大学院の受験は、TOEIC、適性試験、既修者認定試験などいくつか試験を受けなければなりません。私のようにいくつか思わしくない結果が出てしまうこともあるかもしれませんが、それでも、法律試験で挽回できる学校は必ずあります。ですので、諦めず最後まで対策を行っていくことが大切だと思います。